

「信濃美術館整備基本構想」のポイント

県民文化部 文化政策課

信濃美術館整備検討委員会から報告された「信濃美術館のあり方及び整備に関する基本方針」を踏まえ、具体化に当たっては、次の観点で整備を推進する。

新美術館の理念

○「人本位」で運営する開かれた美術館

- ・「物」としての美術作品を収集・展示するだけの場所ではなく、作品を作る人（芸術家）、見せる人（美術館員）、観る人（来館者）など、美術館に関わるあらゆる「人」を中心に捉え運営する
- ・広い県土を有する長野県の特性を踏まえ、地域へのアウトリーチ活動に力を入れる
- ・施設整備や運営に県民や関係者の意見を反映し、県民に身近な開かれた美術館として運営する

重点的な活動

＜＜学習県への貢献＞＞

○開かれた学びの場としての美術館

- ・年齢に関わらず、また、障がいのある方に配慮しつつ、誰もが学べる美術館教育プログラムを充実
- ・地域や学校へのアウトリーチ活動を展開

＜＜全国一多い県内美術館の中核を担う＞＞

○巡回展等の開催による連携・協働

- ・県内美術館と連携・協働した巡回展の開催や展覧会の共同企画
- ・教育プログラムの共同実施

○県内美術館の学芸員等の調査・研究活動の支援

- ・アート・ライブラリー（美術図書館）を県立長野図書館や県立歴史館等と連携して整備
- ・県内美術館の学芸員や大学の研究者・学生等の調査・研究活動を支援

＜＜魅力ある美術館に向けて＞＞

○信州ゆかりの現代作家の支援

- ・長野県出身の有力な現代作家を中心に個展やグループ展を継続的に開催

○テーマ性をもった美術作品の収集と展覧会企画

- ・長野県ならではの山岳風景や精神文化に焦点を当てる
- ・近現代美術の収集と企画展を通じて、「自然と人間」をめぐるテーマを今日的な視点で取り上げる

今後の進め方

○推進体制の強化

- ・準備に向けた県の組織体制の整備
- ・美術関係者や教育関係者、経済団体、観光関係者等による準備委員会を設置し、準備を進める
【検討事項】設計・施設整備、展覧会の開催・展示、コレクションポリシーの具体化、美術館教育プログラム・アウトリーチ活動、県内美術館との巡回展や展覧会の共同企画、観光との連携など集客戦略、職員体制、寄付募集の仕組み 等

○幅広い意見の反映と協働

- ・設計段階から意見交換やワークショップなどを行い、県民の参加・協働による県民の誇りとなる美術館づくりを進める
- ・県民や企業・団体等からの寄付や寄贈など、多くの方に応援してもらえる仕組みを検討

| | |
|---------------|---|
| 施設規模 | 延床面積は、東山魁夷館を含め 12,000 m ² 程度を基本に、基本設計を経て確定 |
| 建設事業費 (概算) | 【本館の建設】100億円程度 【東山魁夷館の改修】10億円程度 } 試算に基づく概算事業費であり、基本設計を経て確定 ※美術品等の移転費用を除く。建設資材の価格変動等により、今後変動する可能性あり。 |
| スケジュール | 【本館】平成33年度当初からの開館を目標にしつつ、基本設計を経て確定 【東山魁夷館】改修中は休館、開館時期は基本設計を経て確定 |